

## スマホ：持つべきか、持たざるべきか？

こんなにもスマホが社会を席卷した時代に逆行するような発言は天邪鬼か、日進月歩のハイテクについていけない年寄りのひがみかかもしれません。



ホームまた電車内でスマホを操作する人の多いこと。空いた車内で向こうの7人掛けの椅子に座った乗客が一斉に、という光景も珍しくありません。周囲にまったく関心を寄せずその世界に浸っている。



歩道では向こうからハイヒールの若い女性がスマホを操作しながら歩いてくる。こちらから歩いていく人間には目もくれない。危うくぶつかりそうになる直前に身をかかわす。美人だったらぶつかってもいいんだけど、(なんちゃって)・・・

「テレビを見ながら」「食事をしながら」「歩きながら」という“ながら利用”。「止めようとしても止められない」とスマホがアヘンのように手放せなくなっている人もいます。

私はまだスマホを持っていません。年金生活者には料金も高い。それに年寄りには難しくて使いこなせないような気もするからです。実は今持っているガラケイも使いきれしていません。定年になって間もなくシニア向けのドコモの「らくらくホン」を買ったのですが、器械自体が重く、内ポケットに入れると重さで垂れ下がるようになるので、めったに携帯することはなく、待ち合わせとか、こちらから発信が必要な時だけ携帯するようにしているのです（身勝手に関係の皆さまには申し訳ありません）。



携帯していないもう一つの理由は、外からいつでも勝手に“こちらの世界”に入ってきてもらいたくない、との思いがあるからです。この歳をして緊急に何かをしなければならぬ、というのは殆どないでしょう。必要な用件があれば自宅の固定電話の留守録に残していただき帰宅した時点で対応します。周囲の景色の移り変わりを楽しみ、ただぼんやりと歩いているだけでも心の休息となります。デジタルの奔流に溺れかかる時代に“手ぶら”の爽快さは貴重です。

確かに、なんでも情報を入手できるスマホは便利この上ないでしょう。でもいつも下を向いてスマホをいじっている若者たちに訴えたいのです。



「人と話す、本を読む、物思いにふける、という時間と空間がなくなっていますよ。主体性がなくなりスマホに引き摺り回されているようにも見えますよ！」——なんて偉そうなことを言いながら、一方ではこのままの自分が時代に乗り遅れてしまうのでは、と心配している昨今でもあるのです。

**「スマホ？持つべきか、持たざるべきか、それが問題だ！」**

(ハムレットの独白「生きるべきか、死ぬべきか、それが問題だ！」から)